

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
国語国文学 Japanese Literature		1年・2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義・演習	選択	(保育士必修・教職課程必修(幼稚園教諭二種))	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
国語の表現力を更に高めたいと考えている人には「国語表現」(後期)の受講が望まれる。				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
就職試験への対策を考えている人は「国語基礎教養」(後期)の受講が望まれる。				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
佐藤 康弘		必要に応じ非常勤講師室等において対応する。		授業中に指示します
授業の概要				
①昔話の学習(集団の前で順次朗読→あらすじをメモする→印象深いシーンをイラストで描く→昔話の特色を解説する。)				
②テキストの学習(国語表現に関する基本的事項を適宜講義する。)				
③文学鑑賞(月の異名を通して万葉集等の文学に触れ、日本人の精神性について考える。)※別紙プリントA4。				
④自主学习:漢字練習・国語常識(漢字は読み書き・難読語等を扱い、国語常識では旧国名)				
授業の目標				
◎昔話を通して、自己理解を深め、将来の自己実現の契機とする。				
①昔話の学習(昔話の理解が深まり、朗読する力を身に付けることができるようにする。)				
②テキストの学習(敬語表現・手紙や葉書の書き方等の基本的事項の知識を養うことができるようにする。)				
③文学鑑賞(代表的な文学作品を分析し、その魅力を説明する力を身に付けることができるようにする。)				
④漢字練習・国語常識(社会人に必要な国語力の基礎を身に付けることができるようにする。)				
授業の方法				
この授業の方法は、以下の3項目となる。				
①演習(朗読・議論・発表・作文等)を中心とし、自己理解を深め、表現力が高まるよう支援する。				
②毎時間上記内容を含んだプリントによる学習であり、個別的指導の一環として、次時にアドバイスを添えて返却する。				
③プリントの最後に「本日の授業で考えたこと」を記入して学習内容のポイントを確認する。質問も同時に記入する。				
学習の成果(学習成果)				
①多種多様な考え方があることを理解しながら、自己の考えを深めることができる。				
②昔話や代表的な文学作品の特色や魅力をわかりやすく伝える力を身に付けることができる。				
③表現力を高めるために必要な知識を身に付けることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	講義ガイダンス(勉強の心構え・講義計画・プリント・課題・成績評価等について) 学びの基礎:学びのプロセス/言葉の力/「私」の表現/			
第2回目	昔話①「桃太郎」 考えよう 調べよう:桃太郎を構成する要素が象徴するもの/時代 ⇒ 文章でまとめよう			
第3回目	昔話②「桃太郎」 考えよう:「桃」に関わる物語(古事記/桃花源記等)から「桃」が象徴するもの/現代社会に通じるものは?⇒文章で自分の考えをまとめよう。			
第4回目	昔話③「浦島太郎」 考えよう 調べよう:浦島太郎を構成する要素が象徴するもの/時代/万葉集に見る浦島伝説⇒先人の思いを洞察しよう。⇒ 文章でまとめよう。			
第5回目	昔話④「浦島太郎」 考えよう:御伽草子「浦島太郎」に見る「衆生済度」※ジョセフ・キャンベル「神話の力」を参照に「昔話が示す「ロードマップ」について感想を書いてみよう。 テキスト:「原稿用紙の使い方」			
第6回目	昔話⑤「大工と鬼六」 考えよう 調べよう:「鬼」「水」とは? 参考:佐野市民話「白竜潭」⇒文章でまとめよう。			

第7回目	昔話⑥「大工と鬼六」 考えよう：言葉の力 参考：万葉集の憶良・人麻呂の歌 ⇒「言葉の力」について、考えをまとめ、文章化しよう。	
第8回目	昔話⑦「織姫と彦星」 考えよう：「もし私が神様・織姫・彦星だったら…？（文章完成法）/「愛するということ」フロム著を参考に、愛について考えてみよう。 テキスト：文章表現の留意点	
第9回目	昔話⑧「織姫と彦星」 考えよう：人間関係について「啓発録」「自信を育てる心理学」「己に背くもの」の文章を参考に、まとめてみよう。	
第10回目	昔話⑨「一寸法師」 自分の視点決めて読もう：発表し視点の違いを確認しよう。視点が変わると何が起こるか考えよう。考えよう：「執着」をテーマに、自分の経験を作文しよう。	
第11回目	昔話⑩「一寸法師」 考えよう：「一寸法師」はあなたにどのようなメッセージを送っているだろうか？ テキスト 文の書き方 「文の構造」	
第12回目	昔話⑪「年越しの火」 考えよう 調べよう：「年越し」は日本人にとってどんな意味・価値を持っていたらうか？ 描いてみよう：物語にふさわしい挿絵を描いてみよう。挿絵について意見交換しよう。	
第13回目	昔話⑫「年越しの火」 マザーテレサの文章を参考に、「豊かさ」「貧しさ」について、自分の考えをまとめよう。	
第14回目	小論文作成：「母という暴力」芹沢俊介著から、「男性的役割」「情勢的役割」について、考えをまとめよう。「英知の教育」クリシュナムルティ著から、「自由と秩序」について、考えをまとめよう。	
第15回目	全体のまとめ(重要事項の確認)	
事前・事後学習	事前学習（本時のテーマについて調べ、自分の考え方を整理しておく）・事後学習（返却プリントを毎時間確認する）	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	45%	毎時間配布のプリントを授業後に回収。毎時間ごとに「読む・聞く・書く・話す+レポート」の各領域を4点満点で評価し、その平均点を本時の授業評価とする。評価：優4/良3/可2
レポート	15%	プリントのレポート領域（文章表現）の表現力により評価する。評価基準は上記同。（言葉の定義/誤字脱字/文脈/論旨の明確さ等）
調査報告書		
小テスト		
試験	40%	16週目に実施。大テーマによる論述問題(2問)で10点、授業全体から短答式の設問(15問)で30点の試験。40点満点。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：『実践国語表現 改訂版』（市川毅・仲井克己・原田留美著・おうふう・1000円＋税）		
参考書・参考資料：授業担当者より適宜紹介するが購入の必要はない。		
履修上の留意点・ルール		
毎回授業でプリントを配布し回収して添削・評価を行うので、欠席した場合は「オフィスアワー」を利用して補講を受ける。		